

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	理学療法概論						
担当講師	及川龍彦 長野由紀江						
実務経験の概要	及川龍彦 : 理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。 長野由紀江 : 理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	3	時間数	75	開講時期	通年
授業形態	講義/演習/オムニバス						

授業概要

1. 理学療法の概要について学習します。
2. 理学療法士の社会的役割と必要とされる資質について学習します。
3. 理学療法士としてのキャリアラダーについて学習します。
4. 理学療法士に関わる業務、各種法律・制度、業務管理、職能について学習します。
5. 理学療法士業務に関わる制度や教育・研究について学修します。
6. 社会における理学療法士の組織や職能について学修します。

学修到達目標

1. 理学療法士の概要が説明できる。
2. 理学療法士の社会的役割が説明できる。
3. 理学療法士に相応しい資質を考察できる。
4. 理学療法士としてのキャリアラダーを説明できる。
5. 理学療法士に関わる業務および業務管理について説明できる。
6. 理学療法に関わる各種法律・制度、職能について説明できる。
7. 理学療法士に関わる各種制度とその領域における役割を理解し、述べることができる。
8. 理学療法士の教育制度や研究の必要性を理解し、述べることができる。
9. 社会における理学療法士の職能や組織を理解し、述べることができる。

授 業 計 画

第1回	理学療法の概念①	及川龍彦
第2回	理学療法の概念②	及川龍彦
第3回	理学療法の概要①	及川龍彦
第4回	理学療法の概要②	及川龍彦
第5回	理学療法の概要③	及川龍彦
第6回	理学療法士の業務	及川龍彦
第7回	理学療法の対象	及川龍彦
第8回	理学療法の手段	及川龍彦
第9回	理学療法の過程	及川龍彦
第10回	理学療法の歴史	及川龍彦
第11回	医療における理学療法の役割	及川龍彦
第12回	福祉における理学療法の役割	及川龍彦
第13回	理学療法士の社会貢献	及川龍彦
第14回	理学療法士に求められる資質①	及川龍彦
第15回	理学療法士に求められる資質② (演習)	及川龍彦
第16回	理学療法士に求められる資質③ (演習)	及川龍彦
第17回	理学療法士に求められる資質④ (演習)	及川龍彦

第18回	理学療法士及び作業療法士法①	及川龍彦
第19回	理学療法士及び作業療法士法②	及川龍彦
第20回	理学療法士及び作業療法士法③	及川龍彦
第21回	個人情報保護法	及川龍彦
第22回	理学療法士のキャリアラダー	及川龍彦
第23回	理学療法士と生涯学習	長野由紀江
第24回	医療保険制度の概要としくみ	長野由紀江
第25回	医療保険制度下における理学療法士の役割と業務①	長野由紀江
第26回	医療保険制度下における理学療法士の役割と業務②	長野由紀江
第27回	介護保険制度の概要としくみ	長野由紀江
第28回	介護保険制度下における理学療法士の役割と業務①	長野由紀江
第29回	介護保険制度下における理学療法士の役割と業務②	長野由紀江
第30回	障害者自立支援制度の概要と理学療法士の役割	長野由紀江
第31回	保険領域の現状と理学療法士の役割	長野由紀江
第32回	理学療法業務実践におけるリスク管理	長野由紀江
第33回	理学療法士の教育①	長野由紀江
第34回	理学療法士の教育②	長野由紀江
第35回	理学療法士の研究①	長野由紀江
第36回	理学療法士と研究②	長野由紀江
第37回	理学療法士の職能と組織①	長野由紀江
第38回	理学療法士の職能と組織②	長野由紀江

評価方法

筆記試験

教科書

学療法概論第4版（神陵文庫）・プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

理学療法士には資質面の研鑽が必要です。教科書上の知識を覚えるだけでなく、自身を振り返る機会を常に持って下さい。（及川）
 現社会における理学療法士の役割と現状について多く学びます。理学療法士を目指す学生として礎を築くことを意識して授業に臨んで下さい。（長野）

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	理学療法評価学Ⅰ						
担当講師	齊藤公太						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設、介護施設にて実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	45	開講時期	前後期
授業形態	講義・実技						

授業概要

理学療法評価とは何か、考え方や進め方などを学びます。また、障害モデルや理学療法評価における検査、測定を実技を取り入れながら、学修を行います。

学修到達目標

1. 理学療法評価の必要性と役割、流れを理解できる。
2. 国際障害分類（ICIDH）、国際生活機能分類（ICF）を理解できる。
3. 理学療法評価実践に必要な知識ならびに技術を習得する。

授 業 計 画

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 理学療法評価の概要①（理学療法評価の意義と目的） |
| 第2回 | 理学療法評価の概要②（理学療法評価の流れ） |
| 第3回 | 理学療法評価の概要③（理学療法評価の分類と項目内容の理解） |
| 第4回 | 理学療法評価の概要④-1（国際障害分類と国際生活分類の理解） |
| 第5回 | 理学療法評価の概要④-2（国際障害分類と国際生活分類の活用方法） |
| 第6回 | 理学療法評価の概要④-3（国際障害分類と国際生活分類の活用実践） |
| 第7回 | 理学療法評価の概要⑤（理学療法評価の記録） |
| 第8回 | 各論①一般評価事項（医療面接と情報収集） |
| 第9回 | 各論②-1形態測定に必要な知識の理解 |
| 第10回 | 各論②-2形態測定の実践 |
| 第11回 | 各論③-1関節可動域測定に必要な知識の理解 |
| 第12回 | 各論③-2関節可動域測定の実践 |
| 第13回 | 各論④-1筋力測定に必要な知識の理解 |
| 第14回 | 各論④-2筋力測定の実践 |
| 第15回 | 各論⑤-1知覚検査に必要な知識の理解 |
| 第16回 | 各論⑤-2知覚検査の実践 |
| 第17回 | 各論⑥-1筋緊張検査に必要な知識の理解 |
| 第18回 | 各論⑥-2筋緊張検査の実践 |
| 第19回 | 各論⑦-1反射検査に必要な知識の理解 |
| 第20回 | 各論⑦-2反射検査の実践 |
| 第21回 | 各論⑧代表的なバイタルサインの理解ならびに実践 |
| 第22回 | 各論⑨-1姿勢分析に必要な知識の理解と実践（臥位と座位） |
| 第23回 | 各論⑨-2姿勢分析に必要な知識の理解と実践（立位と記録方法） |

評価方法

筆記試験（70％） 実技試験（30％）

教科書

理学療法評価学（金原出版） ICF国際生活機能分類（中央法規）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

理学療法評価学を学ぶ上では解剖学、生理学、運動学の知識が重要となるため、しっかり復習した上で講義に臨んで下さい。実技が多い科目となりますので、積極的に自主練習を行い、知識・技術を身につけましょう。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	基礎理学療法学						
担当講師	齊藤公太						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設、介護施設にて実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義・実技						

授業概要

理学療法を实践する上での流れや注意点、目的、効果など基礎知識・技術を学修します。また、一次救命処置について学修します。

学修到達目標

1. 理学療法の概要（流れ、注意点、目的、効果など）を理解できる。
2. 運動療法（関節可動域運動、筋力トレーニング、機能統合練習など）の知識を身に付け、実践できる。
3. 一次救命処置の流れを理解し実践できる。

授 業 計 画

- 第1回 運動療法の必要性と意義
- 第2回 運動の効果
- 第3回 運動療法の順序、リスク管理（運動の休止・中止判断に必要な知識の理解）
- 第4回 トレーニングの基礎的原理
- 第5回 関節可動域トレーニングに必要な知識の理解①
- 第6回 関節可動域トレーニングに必要な知識の理解②
- 第7回 関節可動域トレーニングの実践①上肢-体幹
- 第8回 関節可動域トレーニングの実践②骨盤-下肢
- 第9回 筋力増強訓練に必要な知識の理解①
- 第10回 筋力増強訓練に必要な知識の理解②
- 第11回 筋力増強訓練の実践①
- 第12回 筋力増強訓練の実践②
- 第13回 筋持久力増強訓練に必要な知識の理解
- 第14回 筋持久力増強訓練の実践
- 第15回 機能統合訓練に必要な知識の理解
- 第16回 機能統合訓練の実践①臥位～座位
- 第17回 機能統合訓練の実践②座位～立位
- 第18回 機能統合訓練の実践③床上姿勢動作練習
- 第19回 機能統合訓練の実践④日常生活動作練習
- 第20回 運動学習①
- 第21回 運動学習②
- 第22回 一次救命処置に必要な知識の理解
- 第23回 一次救命処置の実践

評価方法

筆記試験（100％）

教科書

運動療法学テキスト（南江堂）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

基礎理学療法学を学ぶ上では解剖学、生理学、運動学の知識が重要となるため、しっかり復習した上で講義に臨んで下さい。実技が多い科目となりますので、積極的に自主練習を行い、知識・技術を身につけましょう。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	生活活動学Ⅰ						
担当講師	長野由紀江						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	45	開講時期	前後期
授業形態	講義 演習 実習						

授業概要

1. 対象者の生活を支える日常生活活動の概念、構成について学修します。
2. 日常生活活動の基盤となる基本動作について学修します。
3. 対象者の生活活動における理学療法の役割を学修します。

学修到達目標

1. 生活活動の概念及び日常生活活動の概念、構成を理解し、述べることができる。
2. 基本動作の過程と介助、指導方法を述べるができる。
3. 対象者の生活活動課題を理解し、課題解決するための理学療法の必要性について述べるができる。

授 業 計 画

第1回	生活の概念と構成
第2回	日常生活活動の概念と構成①
第3回	日常生活活動の概念と構成②
第4回	日常生活活動の基本 姿勢・動作
第5回	基本的日常生活活動の理解 食事動作
第6回	基本的日常生活活動の理解 排泄動作
第7回	基本的日常生活活動の理解 更衣動作
第8回	基本的日常生活活動の理解 整容動作
第9回	基本的日常生活活動の理解 入浴動作
第10回	手段的日常生活活動の理解 家事動作
第11回	手段的日常生活活動の理解 生活管理
第12回	基本動作の過程と介助の基本
第13回	基本動作の過程と介助 起居動作①
第14回	基本動作の過程と介助 起居動作②
第15回	基本動作の過程と介助 起居動作③
第16回	基本動作の過程と介助 移乗動作①
第17回	基本動作の過程と介助 移乗動作②
第18回	基本動作の過程と介助 移動動作①
第19回	基本動作の過程と介助 移動動作②
第20回	生活活動とICF
第21回	生活活動と理学療法
第22回	対象者における生活活動の課題 ケーススタディ①
第23回	対象者における生活活動の課題 ケーススタディ②

評価方法

課題レポート

教科書

日常生活活動学テキスト(南江堂)・プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

生活・日常生活活動・基本動作を理解するため、演習や実習を取り入れますので、体験を通して生活活動を理解して下さい。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	地域理学療法学Ⅰ						
担当講師	齊藤公太						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設、介護施設にて実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	前後期
授業形態	講義						

授業概要

地域リハビリテーションの概念や生活との関連、理学療法士の役割、関連制度などを学修します。

学修到達目標

1. 地域リハビリテーション、地域理学療法の概念や定義、対象を理解できる
2. 地域包括ケアシステムの概念を理解する
3. 地域における理学療法士の役割や関連制度を理解する

授 業 計 画

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 地域リハビリテーションの概念・定義 |
| 第2回 | 地域理学療法の概念・定義 |
| 第3回 | 地域理学療法の対象 |
| 第4回 | 地域包括ケアシステムの理解 |
| 第5回 | 地域理学療法に関連する制度 |
| 第6回 | 障害者総合支援法（障がい者対象とした制度やサービス） |
| 第7回 | 障がい児を対象とした教育、支援 |
| 第8回 | 介護保険制度の概要や仕組み |
| 第9回 | 介護保険制度の利用の流れ |
| 第10回 | 介護保険制度のサービス体系 |
| 第11回 | 行政機関と理学療法士 |
| 第12回 | 介護予防の概念 |
| 第13回 | 地域における関連職種と多職種連携 |
| 第14回 | 地域における評価と理学療法の視点① |
| 第15回 | 地域における評価と理学療法の視点② |

評価方法

筆記試験

教科書

標準理学療法学専門分野 地域理学療法学（医学書院）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

理学療法士の活躍の場は医療現場に留まらず、介護現場にも広がっています。実習や2、3年にも繋がっていく科目のため、しっかり復習をして講義に望んで下さい。

科目名	臨地実習						
履修年次	1	単位数	1	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	実習						

実習目的

1. 理学療法士として働くことを再認識し、これに必要な社会人・職業人としての素養を確認・実践します。
2. 対象者とのコミュニケーションを通じ、その生活に対する造詣を深めます。

実習概要

介護保険サービス提供施設における対象者の生活に関する調査、関わる全ての方々とのコミュニケーションや体験を通じ、理学療法業務への理解を深めます。

学修到達目標

1. 指導者の助言・指導を受けながら前職業人としての基本的態度を身につけます。
2. 対象者との交流を通じ、対象者の日常生活を把握します。
3. 理学療法士を目指すことを再確認します。

評価方法

提出課題

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

学内での学修に励み、別に発行される「臨地実習のしおり」を熟読したうえで望んでください。

